

地域計画（モデル地区）の取組状況（令和6年11月末時点）

担い手を中心に集積・集約化を進め、農地バンクを通じて推進する				長崎県雲仙市 大亀地区	
農業を担う者数 （うち担い手）	29経営体 （26経営体）	農地面積 （うち農振農用地）	46.9ha （35.8ha）	主な農畜産物	玉ねぎ・馬鈴薯・ブロッコリー
農業地域類型	平地農業地域	遊休農地	—ha	現状の集積率 （目標）	66.8% （82.0%）

地域の現状と課題	将来の地域農業の方向性
・雲仙市は、長崎県の東部、島原半島の北西部に雲仙普賢岳を取り巻くように位置し、北岸は有明海に、西岸は橘湾に面している。 ・大亀地区は市の南部に位置し、玉ねぎ、馬鈴薯、ブロッコリーを主要作物としているが、圃場の強度が低く、機械作業が困難で作業効率が悪い。また水田地帯においては、担い手不足による耕作放棄地が増加し、イノシシの活動拠点になっている。 ・圃場が不整形で点在している。	 ・農地中間管理機構を活用した基盤整備事業を検討中。 ・基盤整備による生産効率向上で、担い手への農地集積や高収益作物の導入を図り地域全体の所得向上を目指す。 ・担い手を中心に集積・集約化を進め、団地面積の拡大を農地利用最適化推進員、農地相談員と調整し農地バンクを通じて推進する。

協議を進める過程で発生した課題	取組経緯（課題への対応）及び今後の予定
・協議の場で提示するアンケートによる意向調査結果を反映させた地図の準備 ・協議の場の開催に当たっての地域との事前調整 ・市外在住者への意向調査は郵送での依頼となるため回収率が低い。	・協議の場で使用した現況地図や目標地図の素案の原案は、水土里情報システムで作成。 ・意向調査を実施する前の事前準備にはかなりの手間と時間を要した。また、意向調査では郵送では十分な回答が得られないため、粘り強い戸別訪問が必要。 ・国から配分されたタブレット端末を使って意向調査ができるようになっているが、ほぼ高齢者である農業委員・推進委員は使いこなすことができない。そのため、タブレット操作研修等を定期的実施（計3回）。 ・借り受け希望農家を発掘し、集積まで到達したとしても、担い手への集約化までは年月をかけて長期的に取り組む必要があることから、当初の地域計画（目標地図）では、設定した期間中に地域の合意が図られた範囲で作成。 ・同地区については、農地中間管理機構関連基盤整備事業の活用を検討していることから、今後はその会合を活用し年に2～3回の頻度で協議の場の開催を継続し、年1回をメドに更新する考え。 ・目標地図素案作成は12月末、地域計画策定は令和7年3月末の予定。  第1回協議の場の様子  第3回協議の場の様子  目標地図案